

調査報告

# 学生の音楽観と幼児音楽に向かう姿勢

— 幼児保育学科の学生を対象とした調査を基に「ハイブリットな」音楽教育を考える —

平 松 昌 子

## Students' Dispositions as Surveyed for a “Hybrid” Approach in Musical Education

— Conditions for a Comprehensive Musical Instruction of Future Nursery School Teachers —

HIRAMATSU Shoko

### I. はじめに

保育者養成校である本短期大学部・幼児保育学科では、学生が「幼児音楽」の科目を1年目に履修している。音楽系のこの科目は「鍵盤楽器奏」と「弾き歌い」の習得を主な目的とし、その基礎技能の向上や音楽資質の陶冶をも目指し、学生が入学直後から学習に励んでいる。

卒業後、学生自身は、保育現場で必要な音楽表現や音楽あそびについて、多種多様に思考し、音楽的、創造的に考え、適確な判断で表現活動を実行しなければならない。このような人材に育っていることが養成校に求められている。学生には、子どもと共に表現する音楽に目を向けて、幼児音楽の技能習得に力を注ぐことが要求されている。また本学科の教育課程科目「幼児音楽」では、授業に望む積極的な姿勢や授業態

度が重視されている。

今回の研究調査では、音楽表現活動の経験が学生の幼少時にあったか、また学生各人の音楽意識や音楽観がどのようになっているのかについて把握することが目的であった。つまり学生個人の記憶を辿り、学生周辺の音楽状況と学生の音楽に向かう態度を解明することがそのねらいであった。またこれらを基に保育者養成課程において、多様化している（「ハイブリット化」している）<sup>註1</sup>音楽教育の役割に着目したい。最終的には、本学科の音楽表現の育成強化を目指してこの度、調査を実施した。

### II. 研究調査の方法について

音楽との関わり方に焦点をあて、アンケートの形態で調査を行なった。調査の対象者は

2006年本学幼児保育学科に在籍していた1年生で、「幼児音楽」の科目を受講した学生である。尚、本短期大学部附属幼稚園実習のため参加できなかった学生がおり、実施した時間に回答した者は122名であった。

調査は2006(平成18)年12月1日と12月4日の2日間を使い、「幼児音楽」授業前後の僅かの時間に実施された。

### Ⅲ.学生と幼児音楽

#### (1) 幼稚園・保育所時代の音楽的活動の記憶

幼少時に幼稚園・保育所に通っていた頃の音楽活動について、学生の記憶を頼りに得た回答を表1に示している。

上記設問の項目1、3、8、9、10では、肯定的に回答した学生が目立っている。回答者の82.8%~95.9%は幼稚園・保育所において「いろいろなうたを歌った」「担当の保育者が、ピアノ等で伴奏をしてくれた」ことを心に残している。同様に、「行事のときにうたを歌った」「行事で器楽奏した」「劇などを発表した」ことの印象が強く、学生の記憶に残っている。運動会や発表会などの行事で学生は幼児期に多

くの練習を重ねていたのではないかと推測できる。「リズムを含む遊びを行った」(項目2)ことについての回答は67.2%と下がっているものの、リズムを楽しむように幼稚園等の先生が努力していた様子が窺える。一方、設問11の行事等で鼓笛隊に参加した経験についての回答は一番少ない(30.3%)。これは一部の幼稚園だけで鼓笛隊の演奏が行なわれているので当然である。次に項目4、5、6、7の「指遊びうたや手遊びうたをした」「遊戯やリトミックなど、身体表現を行った」「ミュージックベル、ハンドベルなどで演奏した」「わらべうたをうたいながら遊んだ」の設問の回答は、54.1%~78.7%であった。ということは、遊戯、リトミック等の身体表現を幼稚園で取り組むことが多いのではないかと考えられる。ところで、幼稚園・保育所の両方で表現活動をし「わらべうたで遊んだ」との回答は、その中の最低54.1%だけで、わらべうたについての印象は驚くほど薄い。このことから子どもの遊び文化が、家族構成の変化、地域社会との繋がりの減少、大衆文化や社会的環境の変化から影響を少なからず受けているといえる。項目4、5の「指遊び手遊

表1 幼稚園・保育所時代の音楽活動の記憶

質問事項	経験がある
1. いろいろなうたを歌った。	107 (87.7%)
2. リズムを含む遊びを行った。	82 (67.2%)
3. 担当の保育者がピアノなどで歌伴奏をしてくれた。	101 (82.8%)
4. 指遊び手遊びをした。	87 (71.3%)
5. お遊戯やリトミックなど、身体表現を行った。	96 (78.7%)
6. わらべうたをうたいながら遊んだ。	72 (59.0%)
7. ミュージックベル、ハンドベルなどで演奏したことがある。	66 (54.1%)
8. 行事のときうたを歌ったことがある。	117 (95.9%)
9. 行事のとき、楽器で合奏したことがある。	101 (82.8%)
10. 劇などを発表したことがある。	106 (88.5%)
11. 行事などで鼓笛隊で発表したことがある。	37 (30.3%)

びをした」「遊戯、リトミックや身体表現を行った」についての回答は71.3%～78.7%と期待していたよりも少ない。これは幼稚園と保育所とでは、保育内容が異なっているのかもしれない。殆どの学生は幼少時に幼稚園・保育所のいずれかに通っていると思われるが、この表1からはより多くの学生が幼少時に保育所に通っていたと推測できる。

## (2) 学生の幼少時にうたった曲の記憶

記載されたうたの殆どは、幼稚園・保育所ばかりでなく兄弟姉妹や親が知っている曲で、古くから歌い継がれてきたものであり、学生もよく覚えている。幼稚園・保育所の現場では幼児と向き合い音楽表現をするときにその基本となるものは、あくまでもうたである。幾つかのうたについて、学生の記憶を表2が示している。「その他」の項目では、学生が他の曲を自由に記述した。

「思い出のアルバム」「お正月」「こいのぼり」  
「シャボン玉」「どんぐりころころ」「ジングル  
ベル」「幸せなら手を叩こう」「ちょうちょう」  
「ハッピーバースデー」「大きな栗の木の下で」

「とんぼのめがね」は、85.2%～95.1%で広くうたわれていることが判明している。このなかでよく知られている曲のうち、「お正月」を取り上げた回答が比較的少ない。なぜならその時期になると、この曲はBGとして巷で広く流され、よく聴かれるが、幼稚園等はそのとき冬休みに入っている。それとは対照的に「どんぐりころころ」のうたは何回も取り上げられていた(91.1%)。このうたは秋の行事や遠足などのために選曲され、園児が練習をしていた様子が推測できる。リズムの面白さやドラマ性、諸要素を含む曲のなかで歌われている曲は、「もりのくまさん」「アイアイ」「おもちゃのチャチャチャ」などであり、自由記述で取り上げられていた。つまり学生にはこのうたの印象が強く残っていた。やはり、幼い頃に幾度も繰り返して覚えたうたは、大人になってからも記憶に残る。保育者が子どものために選曲するうたは、その時代の保育内容と大きく関わっていることもわかる。

### (3) 幼少時代の音楽的表現活動の記憶

幼稚園・保育所時代の音楽的表現活動に対し

表2 子どもの頃にうたった曲で覚えている曲

[illegible]

表3 幼稚園・保育所時代の音楽的表現活動との関わり方

幼少時の音楽的表現活動体験	そのような経験があった	
音楽に合わせて体を動かすのは好きでしたか。	100	(82.0%)
友達などと音楽づくりをするとき、充実感がありましたか。	79	(64.8%)
音楽のついた話や劇にわくわくしましたか。	98	(80.3%)
「わらべうた」や「絵描き歌」で遊んだことがありましたか。	100	(82.0%)
テレビのCMの音楽や台詞をまねしたことがありますか。	107	(87.7%)
周囲の音に耳を傾けて音をイメージしたことがありますか。	77	(63.1%)

て、学生がどのように感じていたのかを表3で示している。

「音楽に合わせて体を動かすことが好きだ」の回答は82.0%で多い。「友達などと音楽づくりをするときの充実感」についての回答は64.8%と少なく、幼少時だったときに学生が、幼稚園・保育所において音楽表現を保育者と一緒にそれほど経験していなかったことが想像される。「音楽のついた話や劇にわくわくしましたか」の回答は、80.3%であるが、学生の一部はうたや劇発表の経験や発表する時の快さを得得せずにいたと思える。幼児期に大切である感性の育成を考えると、これらの回答は意味をもちはじめ。幼児と関わる保育者の役割の大切さまでこれらの結果が示している。

設問「テレビのCMの音楽や台詞をまねしたことがありますか」の回答は、87.7%で最も高い。そこには、テレビ、マスメディアから流れる音楽や歌手のまねをしている子どもの姿が想像される。

項目「わらべうたや絵描きうたで遊んだこと

がありましたか」については、82.0%の学生が回答していた。この結果は表1と2において「わらべうた」の場合の回答と異なっている。つまり、わらべうたをうたいながら遊んだ経験の持ち主が前設問時では少なかったが、この表3のわらべうたの仲間である「絵描き歌」について、別側面から質問したところ、8割以上の学生がその経験を記憶していた。

「友だちとの音楽づくりの充実感」や「周囲の音に対するイメージ化」についての回答は63.1%～64.8%で、おもしろい音だな、この音は何かみたい、空き瓶で音の出るものを作ってみようなど、「音」に対して、学生の挑戦、関心、経験や創造力が幼少時期に少なかったように思える。これらの結果をみて音作りへの試みについて幼稚園・保育所と保育者養成課程において、一層重視する必要性を感じる。

#### (4) 学生の高校時代の音楽経験

在学している学生が高等学校に通っていた頃、保育者養成校を志望するにあたり、どのよ

表4 入学前の高校時代の音楽経験について

高校時代に学校で「音楽」を学びましたか。	はい	70 (57.4%)
	いいえ	52 (42.6%)
「いいえ」と答えた人は、なぜですか。	選択しなかった	39 (75.0%)
	選択したかったができなかった	3 (5.8%)
	音楽教科がなかった	9 (17.3%)
入学前の心構えとして、鍵盤楽器のレッスンに通いましたか。	はい	45 (36.9%)
	いいえ	74 (60.7%)

うな状況におかれていたか、どのように思考していたのかを表4で示している。

「高校時代に学校で音楽を学びましたか」に対しては、「はい」と回答した者は57.4%と少なかったことがわかる。「いいえ」と答えた学生に「なぜですか」と質問したところ、「選択したかったが、できなかった」が5.8%、「音楽の教科がなかった」は17.3%。この両方の合計23.1%の回答者が、高等学校で音楽を学びたくても学べられない状況に置かれていたことがわかる。音楽を「学習しなかった」との回答は42.6%で半数近い。この学生の一部は高等学校に在学中、卒業後の進路についてまだ決定していなかったのではないかと推測できる。「入学前の心構えとして、鍵盤楽器のレッスンに通いましたか」と設問したところ、36.9%の者がピアノ等を学習していたことがわかる。その反面、回答者の60.7%の者がピアノ等の演奏技術や予備的な知識をもたないまま入学してきたと思える。

#### (5) 短期大学入学後の鍵盤楽器習得への意欲

「予習、復習時間を何時間位取っているか」の回答結果を時間帯別に分類したものを表5で示している。鍵盤楽器奏の習得にあたり、授業外での練習は大切だが、ここには学生の地道な練習や意欲が十分に現れていない。

#### (6) 保育者になるための努力

表6では、教育的な見地と保育に必要な音楽観の関係について設問した。「学んだことを応用発展させて学習しているか」では、「はい」が53.3%であり、僅かながら「いいえ」を上回っている。「テキストに沿って自主的に工夫して学んでいるか」の類似設問では「はい」が42.6%と半数まで満たない。この項目では練習量を問わなかったが、積極的に学習に挑む意欲が弱いといえる。保育者に必要な「子どもに合わせてうたの伴奏ができるか」「はっきりと大きな声でうたえるか」「新曲を音符の長さで練習できるか」の3項目の回答は、38.5%～54.9%と低いものの在学中に「歌えるうたのレパートリーが多くなった」の答えは70.5%が多い。学生が授業中に学習した成果がそこに着実に現われている。また「現在、弾き歌いできる曲のレパートリー数は何曲か」に対して、0～2曲と極端に少ないレパートリーの学生がいる一方、僅かではあるが、20曲以上習得している学生もいることがわかる。全体の中間層43名のレパートリーはわずか2～3曲であり、多くの学生は「弾き歌い」を難しく感じていることが明らかである。技能資質について「易しい曲であれば初見奏をピアノ等でできるか」と設問したところ、「はい」の回答が38.5%で少ない。また「幼児音楽は大切なので努力し練習している」と答えた者は80.3%で、この意味において

表5 入学後の鍵盤楽器学習に対する意欲について

予習、復習時間を1週間に何時間ぐらい取っていますか。	人 数
0時間	9 ( 7.4%)
30分以内	17 (13.9%)
1時間前後	35 (28.7%)
2時間	14 (11.5%)
3・4時間	19 (15.6%)
5時間	8 ( 6.6%)
決まっていない・分からない	6 ( 4.9%)
無答	14 (11.5%)

表6 保育者になるにあたって

①学んだことを応用発展させて学習しているか。	はい	いいえ	②創作や工夫をテキストに沿って自主的に学んでいるか。	はい	いいえ				
	65 (53.3%)	57 (46.7%)		52 (42.6%)	70 (57.4%)				
③はっきりと大きな声で歌えるか。	はい	いいえ	④新曲を音符の長さで練習できるか。	はい	いいえ				
	67 (54.9%)	55 (45.1%)		65 (53.3%)	57 (46.7%)				
⑤子どもに合わせて歌の伴奏ができるか。	はい	いいえ	⑥歌える歌のレパートリーが多くなった。	はい	いいえ				
	47 (38.5%)	75 (61.5%)		86 (70.5%)	36 (29.5%)				
⑦現在、「弾き歌い」できる曲のレパートリー数は何曲か。		0 曲	1 曲	2・3 曲	4・5 曲	7・8 曲	10 曲	20 曲	無答
		5	11	43	30	6	13	3	11
		%	4.1	9.0	35.2	24.6	4.9	10.7	2.5
⑧易しい曲であれば初見奏をピアノ等で行える。	はい	いいえ	⑨幼児音楽は大切なので努力し練習している。	はい	いいえ				
	47 (38.5%)	75 (61.5%)		98 (80.3%)	24 (19.7%)				
⑩音楽は好きである。	はい	いいえ							
	109 (89.3%)	13 (10.7%)							

学生が努力しているような印象をうける。技能習熟度とは別に、89.3%の学生が「音楽は好きである」と回答した。

#### Ⅳ.まとめと今後の課題

学生を対象にした本調査は、「幼児音楽」の授業科目へ向かう学生の姿勢と対応力を把握するとともに、音楽学習を左右している他の要因について探ることを目的にしていた。星野英五氏が「幼少時の音楽活動の記憶が学生の保育観や保育者観に影響している」<sup>註2</sup>と述べている。同様な傾向がこの度の調査でみうけられる。

教育的な見地からみて、学生に内在している種々の条件、学生の音楽観、音楽経験等について把握することはとても大切である。以前から多くの教育論や教育学が、学生についてのこのような把握を重視してきた。

他方では、学生の音楽へ向かう態度を分析し

たところ、その時代特有の教育組織、教育観、大衆文化やそれらの微妙な変動までが反映されている。将来、保育者になる者の音楽教育を考えると、さまざまなこの要素までも把握することが今日、以前より要求されているといえる。充実した音楽教育を提供することは本学科の当然の目標であるが、教育の力量が問われる現代において、学生自身の状況に加えて、学生を取り巻く条件についての教育者側の理解が必要になってくる。学生の道を拓く効率的な教育が、この理解を基礎にして初めて、可能になってくる。

筆者は幼児の音楽教育、その複合的性質と保育者養成課程において機能的になり得る「ハイブリットな」音楽教育<sup>註3</sup>について以前に紹介したことがある。学習者側の条件、学生の就職後の条件が多様化している昨今では、保育者養成上の音楽教育には、特に幅広いアプローチが要求されている。音楽に向かう学生の姿勢に視点



を当て調査した場合にも幅広い枠組みが必要になってくる。つまり数々のファクターについて把握することにより、立体的なイメージが初めて形成されてくるといえる。

この度実施した調査結果は、保育者養成のハイブリットな音楽教育に一つの大きな弾みを与えてくれる。つまり、驚くほど多数の学生が、体を動かす身体表現を含む音楽経験や劇を伴う音楽発表等を記憶し、肯定的にそれを自分の音楽体験として意識していた（表1項目5、10）。これらを通じて学生の音楽学習は、自然に複合的な特徴を示すことが明白になっている。また音楽とのこの複合的な出会いがあり、音楽が多くの学生に好まれている。これらの結果をみる限り、保育者養成課程において、引き続き多様性と機能性を重視した音楽教育を推進していくことが課題になっていると考える。

#### (引用・参考文献)

- 註1 平松昌子著：「幼児音楽教育をハイブリットな教育として捉えて」北海道文教短期大学研究紀要第28号、2005
- 註2 星野英五著：「学生の音楽意識調査に基づく授業展開報告」全国大学音楽教育学会研究紀要第16号、P.30 2005
- 註3 平松昌子著：「保育者養成課程における音楽イベントの教育的意義」北海道文教短期大学研究紀要第25号、2001

(2007年1月25日受稿)

### **Abstract**

Musical instruction received during their own childhood, contemporary music culture, nursery school conditions experienced in the past, family background and other factors affect the disposition of students towards music. This survey shows that such conditions should be taken into account when applying a broad-based “hybrid” approach in musical education of future nursery school teachers.